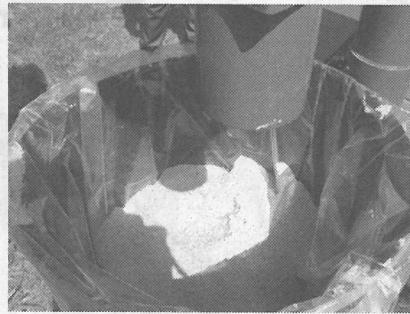
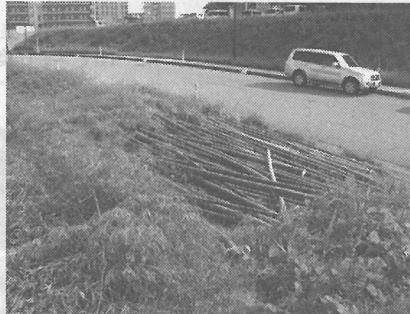
竹を粉碎するカルイの
ドラコン

パウダー状の竹粉になる



切り出した竹をトラックで運ぶ

金沢大学のある金沢市でも放置竹林が目立つようになっている。この辺りも農村地帯では里山などがある。金沢市は、竹粉の入手方法を実験するには必須だ。

金沢大学のある金沢市でも放置竹林が目立つようになっている。この実験を進めるつもりだ。

放置竹林が大きな社会問題となっている。竹林にはきめ細かな手入れが必要とされているが、農村部から人が消えることで放置された竹林は旺盛な生命力であつて、間に既存の林の中まで伸びてしまう。しかも、成長した竹は極めて硬くその処理もままならない。この竹を株式会社カルイ・山形県山形市鉄物町46-1西部工業団地、☎023(645)5710・高橋和成社長の粉碎機「ドラコン」によって粉状にして農業分野に利用できないかと金沢大学の西川准・准教授が様々な取り組みを行っている。里山の未利用バイオマス資源を農業分野で活用することが目的だ。

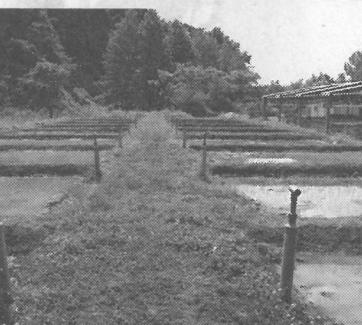
放棄竹林が拡大している「と西川准教授は語る。農村から若者がいなくなるのが原因の一つであろうと考える。いずれにしても放置竹林の問題はこれから大きくなることはあっても小さくなることはないだろう。

竹を切り出して竹粉にいないが、収量が増加する手応えを感じている。今後はさらにこの実験を進めるつもりだ。

カルイ 竹粉利用でドラコン活躍(金沢)

放置竹林が社会問題

小型だが非常にパワフル



金沢大学構内の実験田

で竹を切り出します。「竹の切り出しが大変です。孟宗竹ですと一本で太さ20センチに達するものもあります。切り出した竹は適切に粉碎するのに

フルで驚きました。これまで驚きました。機械は小型ながら、非常にパワフルで驚きました。これがによって粉碎が楽になります。切り出した竹は適切に粉碎するのに

2分もかかりません」と満足気だ。

放置竹林を処理し、得られた竹粉を農業分野で役立てる実験には意義があり、その実験を樹木粉碎機がしっかりと支えて

ラックで運びます。今年は30本ほど切りました」という。

さらに、粉にするのに手間がかかる。「粉碎機

こうして得られた竹粉を構内の実験田を中心に色々と条件を変えながら散布を繰り返し、その効果を見定めている。ドラ

コンはチップナイフ方式。細かいチップを排出し、平刃物は両面使用が可能。研磨して再使用ができます。ローターの負荷を瞬時に読み取り、送り

トロールするので無理のない作業が行える等の特徴がある。